

平成28年11月25日

学校だより

第15号



北九州市立若園小学校
〒802-0816 小倉南区若園三丁目14番22号
Tel 093-931-3550
校長 長畑 潤

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

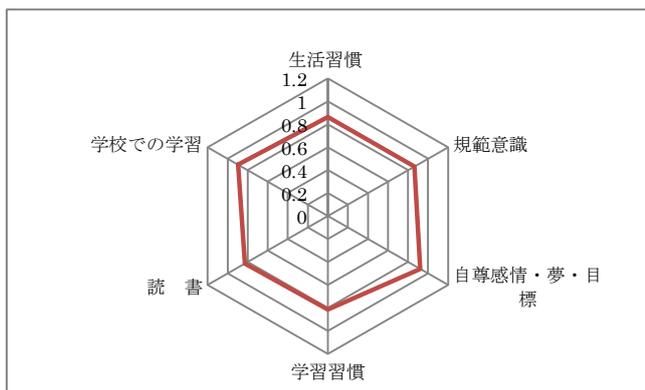
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文章を読む力は高まってきている。ローマ字を含めて、言語についての知識・理解・技能に課題がある。日々の漢字の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返す必要がある。	下回っている
国語B	文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題がある。長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは、何かを判断する力が必要である。	下回っている
算数A	計算力については、取組の成果が少しずつでているようである。他の領域についても定着を図る必要がある。	下回っている
算数B	問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力が必要である。式の意味や根拠を表現する活動を多く取り入れる必要がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校のきまりを守ることに対して、守っていると答えた児童が昨年度より減っている。ルールを守って生活することのよさを味わわせるようにする必要がある。 将来の夢や目標をもち、人の役に立ちたいと思っはいる。しかしながら、自分のよいところを見つけることができずにいる児童が多いので自己肯定感の高揚が必要である。 学習規律として授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示され定着している。また、友達との話し合い活動をよく行い、学び合う態度ができている。 学習習慣について、自分で計画を立てて学習している児童が少ない状況である。宿題以外の家庭学習の大切さを知らせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

解決の見通しをもたせ、一人一人の児童に自分の考えをもつことができるようにし、それを表現することができるように授業を工夫をする。朝学習の時間に、読書、計算、漢字の学習を計画的に実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習ハンドブックを活用して、家庭学習の取り組み方について児童に指導する。家庭学習のよい取組例を校内に掲示して、児童の意欲を喚起する。